

★ まちづくり ★ ニュース

★ ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

264号

★ 2023年12月24日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869



— 都心低空飛行問題について —

○ 裁判はいま

国からは令和6年2月29日までに「可能な範囲で訴訟要件における主張を補充」することになったそうです。

次回進行協議は3月7日(木) 11時から419号法廷(非公開)です。

○ JAL 整備後の確認怠る 整備士不足など他社も問題か

国土交通省はJALに22日、業務改善勧告を出しました。内容は整備作業後に確認主任者が機体の確認をせずに出発させてしまったというもの。更に未実施を確認した担当の管理職が一部の記録を削除するよう指示していたそうです。

JALに限らず整備士が不足、従って航空整備がおろそかになっていくという心配は以前からありました。大事故につながる恐怖を覚えます。

ヨーロッパではなるべく移動は鉄道でと言われ始めています。日本も海外へは飛行機で飛ばねばなりません。国内は協力鉄道にすると大気汚染も少なくなるのではないのでしょうか。

○ 品川区のアンケート調査と要望書

品川の森沢恭子区長は公約であった区民へのアンケートを今夏実施、15歳以上の区民35万8千人のうち8万7千人から回答を得ました。

羽田新ルートに暮らしなどに影響を受けている・やや受けているが合わせて44.5%にのぼり、真上を通る東大井や西品川では60%を越えたことを発表。12月1日、調査結果と区民の負担を減らすよう要望書を国交相に手渡しました。

○ 裏金問題政界をゆるがす

今国会では自民党の裏金問題で大揺れに揺れています。果たして地方議会にも波及していくのでしょうか。板橋区では？日本の政治界はウミを出し切れるか、半信半疑ながら注目していなければなりません。

どの政党であれ、誠実に国民のために働いてくれることを心から望みます。長期に権力の座にいる者は残念ながら腐敗してしまうのが常でした。

○ 石井幹子さん朝日に連載

常盤台で少女時代を送った世界的な照明デザイナーの石井幹子さんが11月27日～12月15日まで「朝日新聞」朝刊に自身の歴史を振り返っての文を連載しました。

「まちづくりニュース」118号(2010年3月)～121号(同6月)には「私の故郷・常盤台」という題で4回の連載を寄稿していただきました。また、街路灯の取り替えの際には私たちの要請に応じて、デザイン事務所からの助言・監修をして頂いています。

いつか親しく講演をお願いできれば、と野望(?)を抱いていますが…

○ 踏切での人身事故

12月のある日、常盤台の踏切または構内で人身事故がありました。今も踏切際に花束や缶ビールが手向けられています。男性だったそうです。駅員や交番の警官は全く情報をくれません。プライバシーに触れないことだけで良いのになぜ秘密にするのか解りません。師走になると自殺者が増えるのかもしれませんが、自殺だったかも不明です。

むかしばなし(37)

石神井川で



子供たちの楽しみみのひとつに釣りがありません。近所の子供たち数人を引き連れてガキ大将が戸田橋の辺まで遠征することもありません。遠征先の今の前野小学校のあたりの小川では沢ガニも捕れたし、夏はホタルが見られました。今では誰も信じないようですが……

もちろん石神井川でもいっぱしの釣り人気が分り釣りを垂れたものです。クチボソやタナゴ、ザリガニなどが捕れました。

餌はポツタ(トブ川など)にかたまつてうよめいているイトミミズ)や赤虫でした。

常盤台から見て、線路の右側(つまり上板(中側)は深いので鉄橋から飛び込んで度胸試しを競いました。左側はふくらはぎぐらいまでの浅さだったので釣りしかできません。

草が生い茂って中に入って釣りしているとヒルが食いついてきました。ヒル対策は塩をひとつかみ新聞紙に入れて持って行って、食いついたヒルに振りかけると直ぐはがれていくのです。引っ張って取るとかゆみが後まで残るのですが塩で取るとかゆみが少なく済みました。

中板橋駅のこちら側から見て右側(南側)から石神井側へと下る斜面は牛の牧場でした。かつて石神井側が湾曲している部分を利用して作られた遊泉園というプールがありました。夏場だけの開園で臨時設営した東上線の駅が中板橋駅でした。何年ごろまで営業していたのでしょうか、常盤台の子供たちは行かなかったようです。

イルミネーション

駅前のケヤキに電飾(イルミネーション)が付けられました。生木に電球を巻き付けるのに抵抗を感じる人もいますが、最近ではLEDだから大した影響はないと言う人も増えています。

雑誌の編集者が取材に来て、ケヤキの脇にお祭りの奉加者みたいに見板が立っているのを見て不思議がっていました。表参道や他の商店街でもイルミネーションは多いけれど、寄付した人や団体名を出している所は見たことがないそうです。同行していたカメラマンは「ダサイですね」とひと言。少し恥ずかしい気がしました。

「チリメンジャコの歯ぎしり」

国民負担の不必要イヴェント

大阪万博の費用がどんどん加算されて行くと共に、参加国のパビリオンの建設が危ぶまれています。世論は縮小または廃止の意見が圧倒的です

大阪府が強行しようとする背景にはIRを実現するための周辺整備という下心が隠れているようです。国民の声を無視してまで強行するのは、やはり撤退する勇氣と清廉潔白な心がないからでしょう。赤字でも税金で補填すれば良いと思うのでしょうか。

一方札幌市がオリンピック招致を断念したのは評価すべき英断でした。あの東京オリンピックの汚さは良い反省材料でした。

常盤台公園のはなづくり

パンジー・ピオラの花の上に、トウカエデの落葉がまとわりついています。花ガラと一緒に取り去らないと折角の花がきれいに見えないのですが……

板橋区の清掃車が毎週火曜日に来ます。公園内は月曜日に老人会の人達が掃いているので、あまり作業はないのではないかと思います。ケヤキ・サクラの山と積まれた落葉のゴミ袋を片付けて行きます。

街中では区からの委託業者がバス通りの枯れ葉をゴルフ場で使う大きなブローラーで吹き飛ばして集めていました。季節によって作業の味は変わるので、恒常的な採用は難しいかもしれません。しかし、夏の水やりとか、もう少し緑の保全に配慮してもらいたいと思います。緑と公園課などはデスクに向かっているよりも板橋区中を歩き回ってほしいし、そうすれば街路樹や公園がもっと生き生きとするのではないのでしょうか。

皇帝ダリアの花時ですが、分けて頂いた公園の株の生育が良くなり、蕾も持たないようです。竹のように丈夫な植物ですが、夏の猛暑をもろに受けてしまったのかもしれない。来年の花を期待して下さい。

